

ケガから感染する破傷風

破傷風とは

- 土の中に存在する破傷風菌の芽胞が傷口から体内に侵入することで感染します。
- 重症化すると死に至ることもあります。

症状

- 感染して3日～21日後に症状が見られます。
- 口があげにくい
- 首筋が張る
- 全身のけいれん
- 呼吸困難 など

発生状況

- 近年の全国の感染症発生動向調査における年間患者数は120例程度です。
- 東日本大震災の際は、発生後の約1年間で震災関連として10例の報告がありました。

予 防 法

- 泥の撤去作業など野外作業時には、素肌を露出しない服装（長袖・長ズボン・厚手の手袋・厚底靴）で作業しましょう。

- 作業後はよく手を洗いましょう。ケガをした際は消毒し傷口を保護しましょう。万が一、ケガをして3週間以内に症状がみられた際はすぐに医療機関を受診しましょう。



- 必要な方は、破傷風トキソイドの接種が任意接種として可能です。1968年以前に生まれた方は、破傷風を含むワクチンを小児期に受けていないため、作業をする際は注意が必要です。